

横浜市市立病院あり方検討委員会

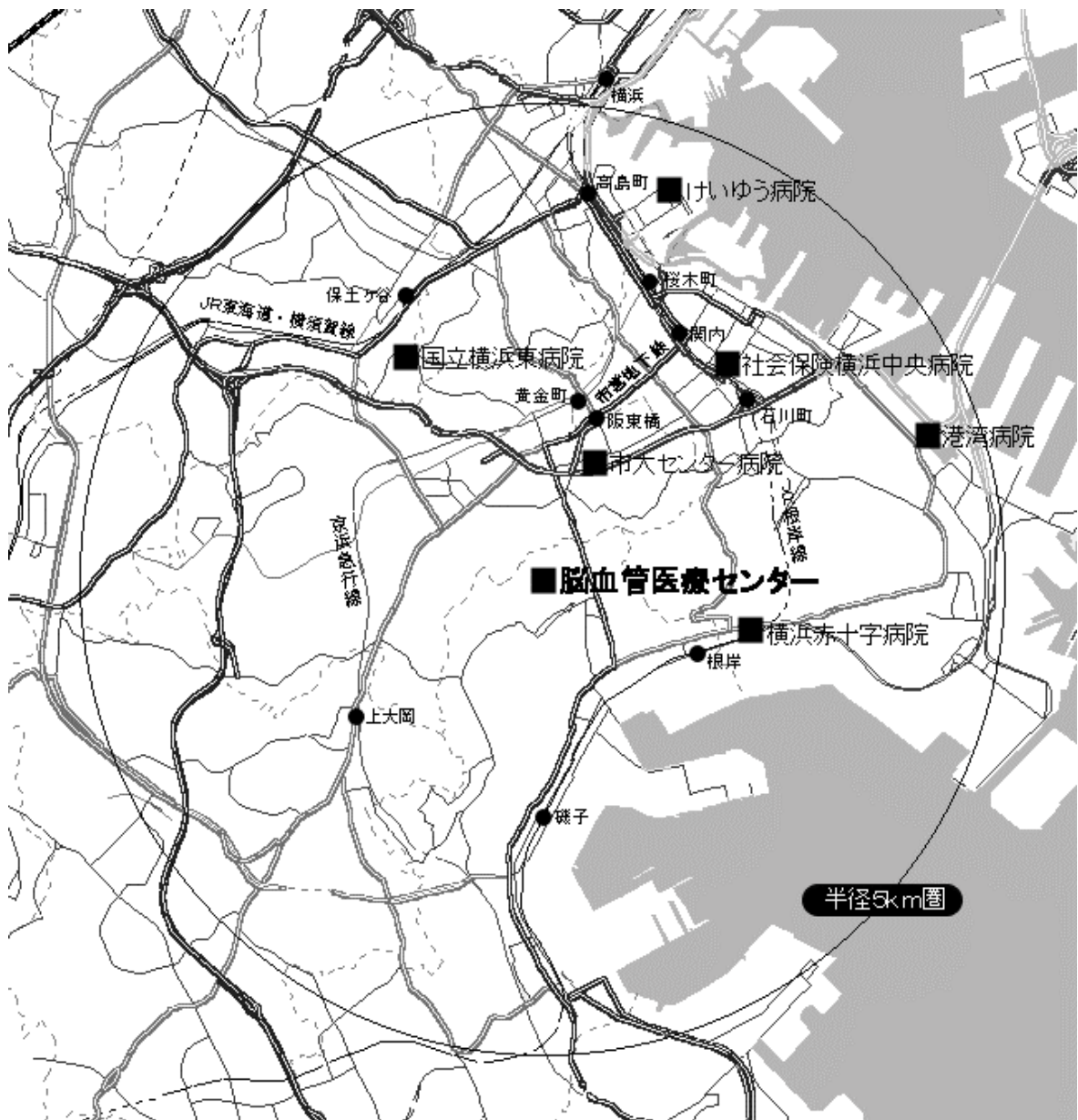
第 8 回 資 料

目 次

ページ

資料 1	脳血管医療センターを中心とした半径 5 km圏内に所在する主な病院	1 - 1
	半径 5 km圏内に所在する主な病院の概要	1 - 2
	参考：市民病院を中心とした半径 5 km、8 km圏内に所在する主な病院	1 - 3
資料 2	脳血管医療センターの機能について	2 - 1
	参考：脳血管医療センターの組織	2 - 3

脳血管医療センターを中心とした半径5 km圏内に所在する主な病院



* 半径5 km圏内に所在する主な病院への交通アクセス

【脳血管医療センター】

J R「根岸駅」からバス(約15分) 又は市営地下鉄「吉野町駅」(最寄りバス停吉野町駅前)からバス(約10分+徒歩10分)

【港湾病院】

J R・東急・市営地下鉄「桜木町駅」からバス(約20分) 又はJ R・市営地下鉄「関内駅」(最寄りバス停尾上町)からバス(約20分) 又はJ R「根岸駅」からバス(約20分)

【市大センター病院】

市営地下鉄「阪東橋駅」から徒歩(約5分) 又は京急「黄金町駅」から徒歩(約10分)

【横浜赤十字病院】

J R「根岸駅」から徒歩(約10分)

【国立横浜東病院】

J R「保土ヶ谷駅」から徒歩(約10分)

【社会保険横浜中央病院】

J R「石川町駅」から徒歩(約5分) 又はJ R・市営地下鉄「関内駅」から徒歩(約10分)

【けいゆう病院】

J R・東急・市営地下鉄「桜木町駅」から徒歩(約15分) 又は東急・市営地下鉄「高島町駅」から徒歩(約20分)

脳血管医療センターを中心とした半径5 km圏内に所在する主な病院の概要

	脳血管医療センター	港湾病院	市大センター病院	横浜赤十字病院	国立横浜東病院*1	社会保険横浜中央病院	けいゆう病院
開設者	横浜市	横浜市	横浜市	日本赤十字社神奈川支部	国(厚生労働省)	社団法人全国社会保険協会連合会	財団法人神奈川県警友会
開設時期*2	平成11年	昭和37年	昭和24年 平成12年再整備	昭和39年 [昭和63年増築]	昭和22年	昭和34年	平成8年 [移転再整備]
病床数	300	300	720	380	350	350	410
一般	300	300	670	380	300	350	410
精神			50				
その他	老人保健施設 定員 80人				50(結核病床)		
診療科目等*3	6科	14科	8センター+21科	15科	14科	14科	14科
			救命救急センター 熱傷センター 母子医療センター 難病医療センター 感染症医療センター 精神医療センター 心臓血管センター 消化器病センター				
	内科	内科	総合内科 血液内科 腎臓内科	内科	内科	内科	内科
			内分泌・糖尿病内科 呼吸器内科 (消化器病センター) (心臓血管センター)	呼吸器科 消化器科 循環器科	呼吸器科 消化器科 循環器科		
	神経内科		神経内科				
		小児科 外科 整形外科	小児科 総合外科 形成外科	小児科 外科 整形外科	小児科 外科 整形外科	小児科 外科 整形外科	小児科 外科 整形外科
	脳神経外科	脳神経外科	脳神経外科	脳神経外科		脳神経外科	脳神経外科(休診中)
		皮膚科 泌尿器科 産婦人科	皮膚科 泌尿器科 (母子医療センター) 婦人科	皮膚科 泌尿器科 産婦人科	皮膚科 産婦人科	皮膚科 泌尿器科 産婦人科	皮膚科 泌尿器科 産婦人科
		眼科	眼科	眼科	眼科	眼科	眼科
		耳鼻いんこう科	耳鼻いんこう科	耳鼻いんこう科	耳鼻いんこう科	耳鼻いんこう科	耳鼻いんこう科
	リハビリテーション科	リハビリテーション科	リハビリテーション科 (精神医療センター)				精神科
	放射線科	放射線科	放射線科	放射線科	放射線科	放射線科	放射線科
	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科
		歯科口腔外科	歯科・口腔外科・矯正歯科		歯科(休診中)	歯科・口腔外科	歯科
			臓器移植科				
特徴	・365日24時間救急 (脳血管疾患のみ)	・病院群輪番制 参加病院 ・母児二次救急システム参加病院 ・災害医療拠点病院 ・臨床研修指定病院	・365日24時間救急 (救命救急センター 母子医療センター など) ・精神科救急(3次) ・災害医療拠点病院 ・臨床研修指定病院	・病院群輪番制 参加病院 ・母児二次救急システム参加病院 ・臨床研修指定病院	・病院群輪番制 参加病院 ・母児二次救急システム参加病院	・病院群輪番制 参加病院 ・母児二次救急システム参加病院	・病院群輪番制 参加病院 ・母児二次救急システム参加病院 ・災害医療拠点病院 ・臨床研修指定病院
	・脳血管疾患に対する、発症直後から回復期に至るまでの一貫したリハビリテーションへの取組						

*1 国立横浜東病院は、社会福祉法人聖隷福祉事業団に経営移譲され、平成15年3月に聖隷横浜病院(仮称)となる予定。

新設科：精神科、脳神経外科

病床区分：一般300床+療養50床

*2 開設時期は、現在地での開院時期で、横浜市衛生局「横浜市の医療施設(名簿編)」による。

*3 診療科目は、標榜科目(脳血管医療センター、港湾病院及び市大センター病院は条例・規則上のもの、他は各病院のホームページで確認できたもの)で、医療法上の届出によるものとは異なる。

ただし、市大センター病院については、特定の診療科名を標榜していないが、8つのセンター又は他の診療科が実質的な診療機能を有しているものについては、当該機能を有する主たるセンター又は診療科の名称を()書きで記載した。

参考 : 脳血管医療センターを中心とした半径5 km、8 km圏内に所在する主な病院



脳血管医療センターの機能について

1 設立の背景と目的

高齢化の進展とともに、寝たきりの最大原因である脳血管疾患患者の増加が見込まれる中、「寝たきり」の防止など、横浜市の重要な施策課題に対応するため、老人リハビリテーション友愛病院（昭29年建設、68床）の老朽化を契機に、新たな機能を持った「脳血管医療センター」を設立しました。

整備の目的 { 増加する「寝たきり」防止への取組
患者・家族が住み慣れた地域や家庭で安心して暮らせるようにする
介護等の社会的な負担の軽減を図る

脳血管医療センターは、欧米などで普及が進んでいる脳卒中に対する効果的・効率的な取組をもとに、早期治療と発症直後の早期から安定期まで一貫したリハビリテーションを行うことを理念とした全国で初めての先導的役割を担う専門病院です。

増える脳卒中（受療率：人口10万人対患者数）

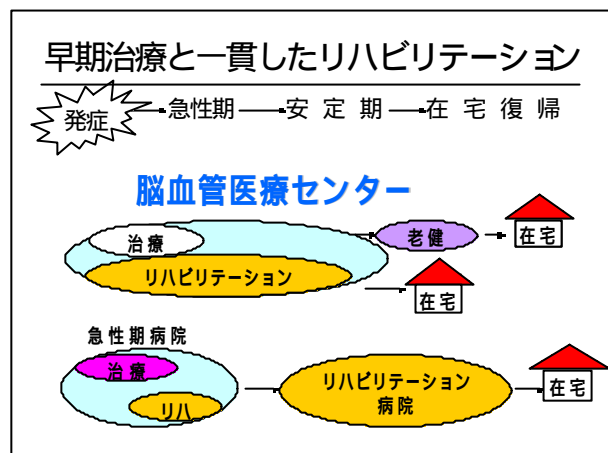
1964年	1999年	
69人	288人	35年間で4倍以上

（財）厚生統計協会編「国民衛生の動向」から

寝たきりの主な原因

脳血管疾患	36%
高齢による衰弱	14%
骨折・転倒	12%

平成10年「国民生活基礎調査」から



参考：脳血管医療センターの診療方針 *

「今後高齢化の進展とともに増加が見込まれる三大成人病の一つであり、寝たきりの最大原因である脳血管疾患に対し、早期治療と一貫したリハビリテーションを実施することにより、寝たきりの患者を少なくすることを目的とする。」

* 「脳血管医療センター（仮称）整備（友愛病院再整備）基本計画書」から

2 センター機能の特徴

脳血管疾患の後遺症を最小限に抑え、寝たきりを防止し、患者・家族にとって日常生活の質が向上することを目的に、次の機能を持っています。

(1) ストロークユニット

各科医師、看護師、各セラピスト等の専門スタッフが協力し、共有化された診療方針に基づいて、効率的かつ効果的に「チーム医療」を行っています。

(2) 的確な超早期診断・治療

24時間365日体制で、専門医がCT、MR等の機器を活用して診断・治療を行っています。

(3) 一貫したリハビリテーション

入院翌日のベッドサイドから在宅復帰まで、一貫したリハビリテーションを行っています。

(4) 患者特性に配慮した施設

「片まひ」など、機能に障害のある脳卒中患者等が動きやすい建物の構造・設備を有しています。

(5) 介護老人保健施設を併設

入院治療は必要としないが、なおリハビリテーションや介護等を必要とする高齢者などに対応し、在宅復帰を支援するため、介護老人保健施設を併設しています。

(6) 予防・地域連携

専門病院として、市民への予防啓発や地域医療機関との連携強化を積極的に図っています。

3 機能の評価

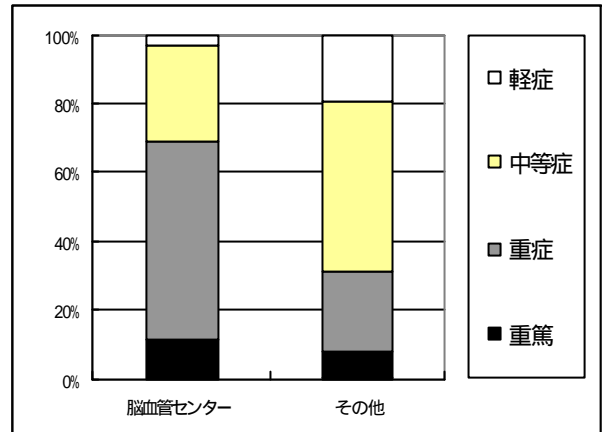
(1) 重症度の高い救急患者の受入

市内脳卒中救急患者の「重症以上」が3割程度であるのに対して、脳血管医療センターで受け入れている患者は、約7割が重症以上の患者となっています。

また、センターへの搬送にあたっては、救急隊や医師の選定等によることが多いことから、センターの機能が評価されているものと考えられます。

搬送先の選定者 平成13年横浜市消防局統計から

	患者	医師	救急隊
脳血管医療センター	16%	35%	49%
市内脳卒中受入医療機関	43%	13%	44%



(2) 高い在宅復帰率と短い在院日数

脳卒中を発症して、急性期からセンターに入院した患者の在宅復帰率は69%（平成13年度）と高く、また在院日数は57日と短く、卒中患者の全国平均（110日）の約半分となっています。

脳卒中患者の平均在院日数

脳血管医療センター平均	64日
急性期からのセンター入院患者	57日
安定期からのセンター入院患者	82日
全国平均	110日

平成13年度センター業務統計から（ただし、全国は（財）厚生衛生協会編平成10年版「国民衛生の動向」から）

(3) 予防啓発への取組

市民講座「脳卒中にならないために」を区福祉保健センター（保健所）との共催で行っており、計7回、約2,600人の参加を得ました。

また、毎月1回、脳卒中の電話相談を行っており、これまでに計820件の相談を受けました。

(4) 地域医療連携

センターの紹介率は78%、逆紹介率は89%（平成13年度）となっています。

紹介元医療機関数は434（平成13年度）と、広範囲からの紹介を受けています。特に病院からの紹介については、市内では南部保健医療圏以外からも広く紹介を受けるとともに、市外からも多くの紹介を受けています。

紹介元医療機関 平成13年度センター業務統計から

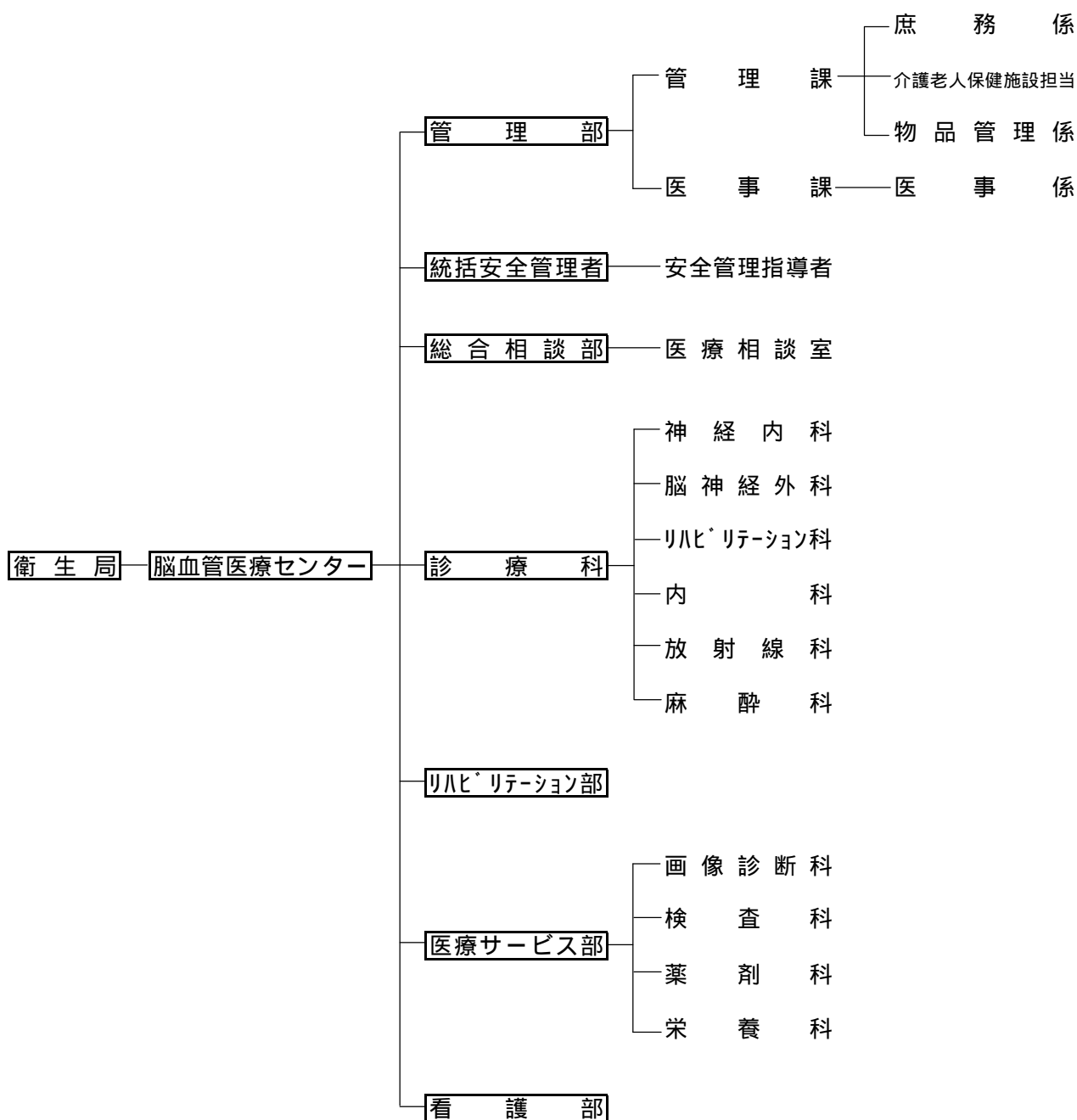
診療圏	病院	診療所
南部医療圏	25 (14.2%)	152 (58.9%)
西部医療圏	23 (13.1%)	31 (12.0%)
北部医療圏	16 (9.1%)	33 (12.8%)
市内計	64 (36.4%)	216 (83.7%)
市外	112 (63.6%)	42 (16.3%)
総計	176 (100%)	258 (100%)

(5) 地域医療支援への取組

地域医療機関や消防局救急隊との合同症例検討会を開催し、医療連携の強化やセンター機能の理解促進に努めています。また、豊富な脳卒中臨床実績を活用して診療支援等を行うためのデータベースを作成中です。

参考：脳血管医療センターの組織

(1) 組織図



(2) 脳血管医療センター職種別職員数

(平成14年3月31日現在)

職 種	職 員 数 (人)
医 師	29
事 務 職 員	21
電 気 職	1
機 械 職	1
臨 床 工 学 士	2
医 療 ソ ー シ ャ ル ワ ー カ ー	4
理 学 療 法 士	28
作 業 療 法 士	26
言 語 聴 覚 士	5
心 理 療 法 士	2
放 射 線 技 師	13
検 査 技 師	8
薬 剤 師	12
栄 養 士	3
看 護 師	244
准 看 護 師	1
看 護 補 助	1
脳 血 管 医 療 セ ン タ ー 小 計	401
事 務 職 員	3
医 療 ソ ー シ ャ ル ワ ー カ ー	1
看 護 師	33
准 看 護 師	3
介 護 老 人 保 健 施 設 小 計	40
合 計	441

(別掲)

セ ン タ ー 長	1
専 修 医	1
運 転 手	2
計	4